

種智院大學 同窓會報

第4号

平成元年2月22日

京都市南区壬生通八条下東寺町545番地
種智院大学同窓会

新会長に池田瑩輝下就任

ご挨拶

種智院大学同窓会
会長 池田 瑩輝



新春の候 会員の皆様方には益々ご健勝のことと拝察申し上げます。

この度、手嶋千俊副会長さんはじめ常任幹事会の皆様方のご推挙をいただき、同窓会長に就任することになりました。多くのすぐれた諸先輩がおられる中、その任の重さを思い、慎重に考えさせていただきました。しかし、わが同窓会が会員の皆様方の暖かいお力添えによりようやく軌道にのり、その活動も次第に活発な様相をみせてきた現状を顧み、この大役をお引き受けさせていただきましたことになりました。

もとより浅学菲才の身であり、会長という重任を果たすには、会員の皆様方のご協力を賜わらなければなりません。今後、森諦圓前会長の業績を受け継ぎ、さらに発展させる素地をつくることのできるよう、努力を傾けて

いきたいと願うものであります。重ねて、会員の皆様方のご支援を心よりお願い申し上げます。

さて、わが同窓会は一昨年以來、活性化をめざして諸事業にとりくんでまいりました。今後、さらに活性化を推し進めるには、これまで同窓会を支えて下さった諸先輩の皆様方が、よりいっそう親睦を深め、同窓生としての絆を強めていけるような活動を計画、実行していかなければなりません。

また、若い会員の方々も次第に増加し、新しい層にも参加を積極的に呼びかけていかなければなりません。そのためにも、より充実した内容を事業計画の中に盛り込んでいくことも意欲的に考えてみたいと思います。

さらに、現在母校においてすすめられている改善計画についても、同窓会としてどのような立場で臨むべきか、皆様方のご意見をいただき、真に母校の発展がはかれるよう、皆様方と共に考えていきたいと思ひます。

これらのさまざまな問題が山積みされておりますが、会員の皆様方の相互の親睦を深めていくというわが同窓会の基本精神をつねに念頭におき、同窓会の発展に寄与していきたいと思ひます。

池田瑩輝新会長就任

昨秋の総会において、会長の人選については常任幹事会一任との決議をうけて、手嶋千俊副会長を中心に、会長候補の人選が行われてきましたが、このたび、新会長に前副会長の大本山中山寺長老池田瑩輝下が就任されることになりました。

池田瑩輝会長は大正12年生れ。東亜外事専門学校（現在の麗沢大学）卒業後、昭和28年、新制の種智院大学第1回の卒業生であります。

昭和30年頃より、中山寺の要職に就任、法務部長、庶務部長を歴任。昭和40年には世界連邦運動の日本仏教徒協議会常任理事、同43年世界連邦運動の日本宗教委員会理事、昭和57年より毎年12月

8日にアメリカ海軍主催の慰霊祭に出席。さらには、エジプトや世界各地での世界平和祈願にも出席し、国際的規模での活躍をされています。また真言宗各派総本山会が建設したインド、ダラムサラのジャパンホームの提唱者でもあります。

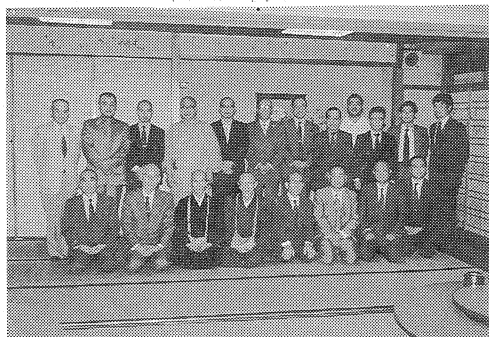
地元では、ご自身の出身校でもある箕面自由学園の理事をつとめられるなど、教育や地域社会へも積極的に貢献されています。

昭和62年6月1日、真言宗中山寺派管長および大本山中山寺長老に就任。これまでのすぐれた業績と国際的な活躍により宗門内外から、衆目一致した人望を得られています。

こうした目ざましい活躍をされ、国際舞台を数多く経験された新会長のもとで、同窓会に新しい息吹きが与えられるものと、熱い期待が寄せられています。

同窓会地方支部設立報告

兵庫県支部



〈田中正信氏提供〉

9月29日、神戸市兵庫区の天安閣において、兵庫県支部設立総会を開催。18名の同窓会員の参加と、大学より兵庫県在住の山崎泰廣、頼富本宏両教授、佐藤久光助教授、田中治憲職員、事務局より宮城洋一郎事務局員が参加。6月の発起人会をうけて準備を重ね、設立総会に至ったのである。総会は、発起人を代表して民間哲雄氏、同窓会から副会長であり兵庫県在住の井上紀生氏、大学から山崎泰廣教授がそれぞれ挨拶。今井圓明氏を座長に協議に入り、経過報告にひきつづいて規約、役員について慎重に討議をすすめ、活発な議論が展開された。その結果、規約については原案を一部修正して了承。役員も別掲（大会特集号）のとおり全会一致で了承。このあと懇親会にうつり、出席者全員が、それぞれの近況を述べあい、旧交をあたためつつ終始なごやかなうちに散会した。

奈良県支部



奈良県支部は、準備会、発起人会を開催して、支部設立の準備作業をつみ重ね、9月29日橿原市

の「橿原観光ホテル」で開催。9名の同窓会員が参加。大学より夏目祐伸教授、中村幸子助教授、都筑大乘職員が参加。発起人を代表して谷口光明氏、同窓会を代表して奈良県在住の常任幹事田畑祐弘氏、大学を代表して夏目祐伸教授がそれぞれ挨拶。支部設立経過報告が村岸定光氏によりあり規約・役員・事業計画について討議。全会一致でそれぞれ了承。支部長に選出された松村実秀氏より閉会の挨拶があり、総会を終了。ひきつづいて懇親会にうつり、支部の今後の運営、母校の思い出など、なごやかな談笑がひろがるなか、散会。（役員については、大会特集号参照）

北陸支部

北陸支部は、新潟・富山・石川・福井の四県にまたがる広域の支部であるが、会員数も少なく困難な課題があったが、会員相互の地道な努力が積み重ねられ、10月4日、高岡市「高岡プラザホテル」にて開催。遠近県各地より4名の会員参加、大学より都筑大乘職員、事務局より宮城洋一郎事務局員が参加。小さな会ではあったが、参加者の熱のこもった討議が展開。新出秀計氏（石川県）による発起人代表挨拶のあと、井出宝泉氏（富山県）による支部設立経過報告をうけて、規約・役員について協議、全会一致で了承。総会のあと懇親会に入り、京専の校歌や学生時代の思い出に花が咲いた。広域にわたるため、日頃から接触をもたない会員が多いだけに、北陸の地に生れた支部を大切に続行していくことをそれぞれ胸に思い、なごやかなうちに散会。（役員は、大会特集号に掲載）

岡山県・鳥取県支部

岡山県・鳥取県支部は10月5日、岡山市の「山佐本陣」にて開催。16名の会員が参加。大学より井上亮淳教授、田中治憲職員が参加。発起人を代表して松本安正氏が挨拶。つづいて同窓会より副会長で鳥取県在住の城光寺教進氏が挨拶。大学から井上亮淳教授が挨拶。生駒研性氏を座長に選出、協議に入り、規約・役員・事業計画について討議。全会一致でそれぞれ了承。ひきつづいて懇親会に入り、支部設立の経過をはじめ、母校の思い出、現状と将来など、話題がつきず、なごやかな一時を参加者、心ゆくまで楽しむことができ、次年度の再会を約して散会。（役員は、大会特集号参照）

徳島県支部

徳島県支部は、10月7日、徳島市の「眉山会館」において開催。16名の同窓会員の参加、大学より

吉田元・助教授、嶋裕海講師も参加。発起人を代表して萩岡明海氏の挨拶のあと、同氏を座長に協議に入った。沖田定信氏より支部設立の経過報告をうけて、規約・役員について討議、全会一致で了承。(役員については、大会特集号参照)。次に事業計画について討議、了承。会員名簿の訂正確認もあわせて行った。総会終了後、懇親会に移り再会の喜びをわかち合い、終始なごやかなうちに散会。

愛媛県支部



10月22日、松山市の「番町会館」にて支部総会を開催。5名の会員が参加。大学より佐藤久光助教授、岩城秀親職員も参加。総会は発起人を代表して神野龍幸氏が開会挨拶と経過説明を行い、大学を代表して佐藤久光助教授の挨拶があり、藤田研道氏を座長に協議を行い、規約・役員・行事計画と予算等について全会一致で了承。このあと懇親会に入り、母校の思い出、大学の現状など、同窓会に寄せる熱い思いを語られた。また参加者のそ

れぞれの現況も述べられ、なごやかなうちに散会。

- 〔役員〕 支部長 神野 龍幸
 副支部長 神田 詠雲
 常任幹事 大黒 宜俊
 監事 高畑 龍憲・天野 晃玄
 顧問 佐藤 明義・板脇 寛雄
 藤田 研道

同窓会地方支部総会出席者

- ◎兵庫県支部 (順不同、敬称略)
 木田宥岳 竹中弘明 民岡哲雄 民岡秀海
 田中正信 井上紀生 東野学明 手塚利貞
 寺河俊禎 森 見章 今井圓明 中定吼州
 山本隆弘 足立有教 棟広照文 祝 宏友
 北村祐道 山本泰弘
- ◎奈良県支部
 谷口光明 密門光範 松村実秀 鈴木隆明
 田畑祐弘 松尾初子 村岸定光 立花祥成
 宮崎幹大
- ◎岡山県・鳥取県支部
 松本安正 岸越秀憲 石原高喜 城光寺教進
 安東法秀 奥寺知光 光澤宏仁 吉井照典
 生駒研性 荒谷恵乘 児玉玄祐 日下部快然
 釈 泉有 明護教人 幡山寛念 薬師寺穆王
- ◎北陸支部
 新出秀計 滝川隆勝 中田弘道 井出宝泉
- ◎徳島県支部
 天谷覚法 萩岡明海 淵川利昭 沖田定信
 佐伯憲真 谷 薫 岡本慈勝 塩田龍瑛
 楠戸龍真 久米秀雄 池内卓雄 高石仁空
 吉岡稔人 白川隆雄
- ◎愛媛県支部
 藤田研道 高畑龍憲 大黒宜俊 神田詠雲
 神野龍幸

東洋医学三千年の英知

脳卒中後の半身不随を治す〈灸〉の秘伝。家庭で手軽にできる
 〈灸〉による反射運動療法、通信指導いたします。

指導料 ¥5,000 (一回目) 二回終了

お申し込みあり次第、指導説明文書送付致します。

料金は着き次第お送り願います。

〒546 大阪市東住吉区西今川1-6-27

ホリイ針治処

堀井吾一〈昭和18年卒〉

☎(06) 719-3497番

★在阪同窓生各位の御利用お待ちしております。

講堂本尊「弘法大師像」修理完成！

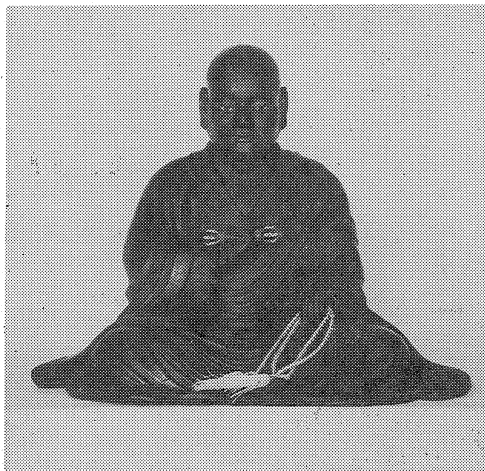
本学は、雲照律師による
総費創立以来110年になる。
その頃から学生に親しまれ
てきた講堂の本尊「弘法大
師像」は、次第に傷みがひ
どくなり、ついに昨年の9
月、保存修理が施された。

この任に当たったのは、
本学卒業生、賢劫造仏所・
長谷法寿師である。

長谷師によれば、「お大
師さまの像は、表面的な傷
みがひどいため、如何に不

自然なく表面的処理をするかにある。その処理と
しては、堅地漆で埋め、腐り胡粉で下地を作り、
水干絵具で彩色、最後に線香で燻蒸、古色がけを
する。とくに、眼（玉眼嵌入）の片方にミミズ状
の虫食があり、これを補彩し、表面を磨いた」と
のことであった。尚、完成後の補彩、古色彩色に
は、同じく本学卒業生（昭和57年）の西岡正祐師
に負うところが多い。こうして無事完成し、再び
講堂に安置され、礼拝されている。

また、この大師像は、従来、鎌倉時代後期の作
という説が有力であったが、像底板に、慶派の末
裔、東寺大仏師職、康翁、慶長16年(1611)作とい
う銘があり、慶派大仏師の由緒正しき「大師像」



であることが判明した。こ
れらの、修理の詳細につい
ては、後日、修理報告で発
表したいとのことである。

長谷師は、昭和55年の卒
業。翌年、高野山専修学院
修了。その一方、学生時代
から京都の故松久朋琳師の
もとで彫刻技術を学び、そ
の後、京都山科に造仏所を
持って、仏像制作に取り組
む「新進気鋭」の仏工であ
る。

代表作に、兵庫県・摩耶山天上寺の七観音、高
野山親王院不動明王、石川県・俱利伽羅不動寺の
不動明王があり、何れも高い評価をうけている。

昨年、『文芸春秋』11月号に「これで見納め！
気鋭の仏工が作った秘仏」と題した記事が、
写真とともに掲載されたので、ご承知の方も多い
ことと思う。

長谷師がめざすところは、経典、儀軌に通じた
仏師であり、古くは仏師僧会理、大仏師運慶のよ
うな知行一致の人を理想とされている。彼は高野
派の僧籍をもつ青年僧であり、「仏師」という条
件を備えた一人である。

最後に師の労に対して感謝の意を表します。

□□□ 同窓会名簿刊行 □□□

昨年来、昭和63年度版として、同窓会々員名簿
ができました。既に予約をいただいていた方々には、
年末に発送しました。が、残部がまだたくさん
ありますので、この機会にお求め下さいますよ
う、お願い申し上げます。

今回の名簿は、同窓会々員名簿の名称が示すよ
うに、同窓会々則第4条にもとづき、会員有資格
者を掲載することにつとめた。しかし、資料が可
なり部分散失、もしくは不備のため住所を確認
できない方々が多くあり、残念な思いを編集作業
のなかで何度か味わった次第であります。

本学における名簿作成の歴史は古く、京専時
代、昭和30年代、さらに昭和54年版とつづきます
が、卒業生を中心においた名簿でありました。そ
れらは、先に述べた資料の決定的な不足の中で、
最大限の努力をした結果でありました。

年末に発送した分については、多くの方々から
ご意見、あるいは住所不明・不備の会員の方々の

詳細な情報をいただきました。ここに記して、深
謝の意を表します。なお、ご意見のなかに、自分
の卒業年度に、記憶のない方々が多くいると
ご指摘がありましたが、それは先に申しましたよ
うに、会員有資格者を可能な限り網羅する編集方針
のためであります。

また、「東寺中学関係者」(会則第4条)も、可
能な限り掲載しましたが、この方々については資
料が全く不備で、判明した方々を該当年次に加
えました。このため、年次のうえで多少の混乱が生
じましたこと、ひとえに編集上の責任であり、今
後、検討しなければならぬことを申し送りして
いきたいと思ひます。

今般の名簿は総頁数 110 頁、会則、会員名簿、
賛助会員名簿、教職員名簿、都道府県索引等を加
えました。先のご意見を、しっかり肝に銘じ、今
後、順次改訂していきたいと考えています。

『同窓会々員名簿』のお申し込みは、同窓会本
部事務局まで、葉書か電話にて、お願いします。
代金は 2,500円 (送料込み)。

平成元年度 種智院大学入試要項

1 学部・学科・コース・募集人員

- (1) 仏教学部・仏教学科（仏教学・密教学・仏教福祉学コース） 一般入試 40名
- (2) 編入生 若干名
大学・短期大学において相当単位を修得した者。

2 試験科目

2次 国語（国語Ⅰ・Ⅱ）〔漢文を除く〕、外国語（英語Ⅰ・Ⅱ）、作文

3 試験日程

	出願期間	試験期日	合格発表	入学手続締切日
2次	2/24(金)~3/17(金)	3/24(金) 9:30	3/27(月) 10:00	4/5(水) 必着

「西院流能禪方伝授録」 全七巻

加藤宥雄編

定価 六五、〇〇〇円

「八結・金玉・異水伝授録」 全一卷

加藤宥雄編

定価 一三、〇〇〇円

「西院流伝授手控」

土宜法龍筆・加藤宥雄筆写

定価 二、〇〇〇円

「堂上儀西院流傳法灌頂教授手鑑」

加藤宥雄筆写

定価 三、〇〇〇円

「東寺定額僧院之血脈相承次第」

定価 八〇〇円

種智院大学密教学会

京都市南区壬生通八条下る東寺町五四五

☎(〇七五)六八一―六五一三 二六〇一

振替京都〇―三〇三八

一、修正会

一月二〜三日

一、節分会 星供

一、柴灯大護摩供

(九月第一日曜日修行)

寝屋川市川勝町五一―

真言宗

観音山 勸昭寺

☎(〇七二〇)二一六二六〇

宗会議員

保護司

人権擁護委員

池永禅光

安樂寺住職

蛎田弘教

〒726 広島県府中市目崎町二五八―一
電話(〇八四七)四一―四四四九

長命寺

養学眞雅

〒722-24 広島県豊田郡瀬戸田町名荷
電話(〇八四五)七―〇四一〇

大覚寺派宿老大僧上定額位
嵯峨御流花道総司所最高顧問
勲五等瑞宝章

月輪寺

土井格明

〒673-04 兵庫県三木市本町二丁目十七―四〇
電話(〇七九四八)二―〇七七九

趣味 俳句・俳画・いけ花

総本山醍醐寺・執行

醍醐派宗務本庁・教学部長
本藏院住職

藏本亮辯

〒860 熊本市本荘六丁目
電話(〇九六三)六四―四八四八

立江寺住職

井上紀生

〒652 兵庫県神戸市兵庫区北山町十二―五
電話(〇七八)五二―一九七五

真言宗醍醐派別格本山理性院住職

壁瀬灌雄

〒601-13 京都市伏見区醍醐東大路町二―
電話(〇七五)五七―一〇〇〇六

総本山仁和寺華務長

手嶋千俊

〒616 京都市右京区御室大内三―
電話(〇七五)四六―二三三〇一

大僧正宗議參議教区長
保護司総監
尼崎市無縁仏会長
別格本山 浄光寺

水谷修夫

〒660 兵庫県尼崎市常光寺三丁目五番一号
電話(〇六)四八―一三六九七

高橋隆進

〒722-14 広島県御調郡久井町和草
真言宗御室派 千林寺
電話(〇八四七三)六一五八
〒106 東京都港区元麻布三―二―二〇
高野山真言宗 正光院
電話(〇三)四〇八―四九二五

総務庁行政相談委員
法務省保護司

播磨八葉師第六番靈場 持明院
高野山真言宗神谷山禪瀧寺

住職 森 見 章

〒673-13 兵庫県加東郡東条町栄枝五〇番地
電話(〇七九五)四六一〇〇〇四
有線放送電話 二一三四

高野山真言宗 満福寺

本山布教師 篠 畑 俊 成

〒632-03 京都府綾部市西坂町宮床六五
電話(〇七七三)四九一一〇三〇

法然寺執事

番 場 實 亮

〒311-43 茨城県東茨城郡常北町岩塚三九四の三
電話(〇二九二)八八一二五九八

真言宗御室派総長
総本山仁和寺執行長

吉 田 裕 信

〒616 京都市右京区御室大内三三
電話(〇七五)四六一一一二五一

東寺真言宗宗議會議員
東寺真言宗別格本山法興寺住職

東 田 教 範

(自坊)
〒755 山口県宇部市新天町二丁目番十八号
電話(〇八三六)二一一二八八〇

真言宗中山寺派
大本山 中山寺

総務部長 今 井 圓 明

〒665 宝塚市中山寺二一十一
電話(〇七九七)八六一六五一七
八四一五六二一
自坊 中山寺 宝藏院
電話(〇七九七)八六一四二二三

福崎町代表監査委員

東寺真言宗 大善寺

住職 棟 広 照 文

〒679-22 兵庫県神崎郡福崎町大貫二四一一
電話(〇七九〇)二二一〇六七一

岩間山正法寺山主

田 居 龍 空

〒520 滋賀県大津市石山内畑町八十二
電話(〇七七五)三四一二四二二

一等格院

実相寺

田 井 秀 戒

〒716-01 岡山県川上郡成羽町下日名六六五
電話(〇八六六四二)三一九八

元正天皇勅願道場

開基泰澄大師・建立養老六年(千二百六十七年前)

西国第十二番靈場

ぼけ封じ観音第四番靈場

本尊千手観世音菩薩

御丈四寸八分
三國伝来 エンブダゴン (元正天皇御念持仏)

厄除 観音
雷除 観音
あせかき観音

岩間山正法寺

(通称 岩間寺)

山主 田居 龍空

〒520 大津市石山内畑町八十二
電話大津(〇七七五)三四―二四一二
振替京都 九四九六

★毎月十七日はJR石山駅より岩間寺ゆきバス運行